

新規就農者(自営) 新規学卒 1

氏名	谷津 佑一さん(24才)
家族構成	両親
市町村	伊達市
ホームページ	
就農形態	新規学卒



1 経営の概要

- (1) 主な営農部門と規模 : いちご 28a、ミニトマト 10a
(2) 労働力 : 本人、父(50代)、母(50代)
(3) 販売方法 : いちご: J A、生協、地元斎場、アンテナショップ
: ミニトマト: J A出荷
(4) 営農上の特記事項 : 米糠などの有機質肥料を使用し、完熟果実を作っている。

2 プロフィール

- ・昭和60年 梁川町生まれ
- ・平成18年 農業短期大学卒業
- ・平成18年 須賀川市小沢農園にて1年間いちごの栽培研修
- ・平成19年 実家にて就農

3 就農の動機

父親のすすめで就農。

4 就農時の取り組み

- (1) 就農を決意した理由
農家研修で、農業はおもしろいと思った。
- (2) 就農するまでの経過と年数
平成16年に就農を決意し、農業短期大学で2年間農業全般を学び、さらに須賀川市の小沢農園で1年間研修。知識、技術を学ぶ。
- (3) 技術の習得方法
須賀川市の小沢農園での研修により、栽培技術を習得。いちご農家である父親からも教わった。
- (4) 過去の農業従事経験
あり→須賀川市小沢農園で1年程度。
- (5) 農地の確保方法
すでにあった農地40aと近所の畑10aを借りた。
- (6) 資金の確保方法
ア 自己資金総額 万円
イ 借入れ
就農支援資金 180万円
- (7) 住宅の確保方法
ア 持ち家(実家)

(8) 地域とのつきあい・所属団体など

ア 農業青年クラブ、消防団

イ 消防団には積極的に参加している。

(9) 生活を支えた補助的収入

地元斎場で配膳の仕事をしていて、農業の方が忙しくなって、最近は行っていない。

(10) その他（努力を要したことなど）

家族は就農に賛成だったので、農業の知識を得るために専門書などを読むように心がけた



5 国・県・市町村等の受け入れ支援措置の活用

(1) 利用した支援制度：就農支援資金

(2) 役に立った支援：平成20年度県単補助事業（いちご）

6 就農しての感想

(1) 良かったと思うことなど

自分の農作物を食べてくれたお客様がおいしいと言ってくれたときは就農してよかったと思う。また、農業は様々な可能性を秘めていると思っている。その可能性について仲間と語り合っているときが楽しく、就農してよかったと思えてくる。

(2) 苦労したことなど

去年からいちごの出荷量のデータをとっているが、今年は去年より少なかった。収量を安定させるのが今後の課題である。農業に対する方向性の違いにより、父親とよくけんかをした。

7 今後の目標・方針

よりよい品質のいちごを作れるように心がけたい。

加工所を作り、いちごの加工品を手がけ、経営を安定させたい

8 新規就農を目指す人へのアドバイス

自分の性格にあった作物を見極めていくことが大切だと思います。施設栽培を希望する方は、自然災害（特に暴風、大雪）には十分な対策が必要です。